

注意報第1号

各関係機関団体の長
各病虫害防除員
農業資材販売等関係者 } 殿

福岡県病虫害防除所長

平成18年度病虫害発生予察注意報第1号について

このことについて、病虫害発生予察注意報第1号を発表したので送付します。

麦類

- 1 病虫害名：赤かび病
- 2 発生地域：県下全域
- 3 発生予想：やや多
- 4 予報の根拠
 - (1) 本病は、開花期から乳熟期にかけて最も感染しやすく、この時期に曇天、降雨が続き、比較的気温が高い(気温15以上)と多発する。
 - (2) 4月上旬に断続的な降雨があり、気温も高く経過しているため、本病の感染に好適となっている。
 - (3) 福岡管区气象台4月7日付け発表の1ヶ月予報では、平年に比べ曇りや雨の日が多く、気温は平年並か高く降水量は平年並か多いと予想されている。
- 3 防除上注意すべき事項
 - (1) 防除適期は、小麦が出穂後7～10日の開花期、大麦が出穂後1～4日の穂揃い期である。2回目の防除は第1回目の防除の7～10日後に行う。適期を過ぎると防除効果が低下するので注意する。
 - (2) 出穂期は、農業総合試験場の作況調査(大麦：11月25日、小麦：11月21日播種)によると、今後気温が平年並で経過した場合、アサカゴールドは4月18日頃、チクゴイズミは4月18日頃と予想されている(農産部)。なお、ニシノチカラの出穂期は4月13日、シロガネコムギは4月14日であった(筑後分場)。
 - (3) 防除薬剤は「平成18年度普通作物病虫害防除の手引き」を参照する。
なお、チオファネートメチル剤は平成17年10月19日付けで農業登録内容が変更され、出穂期以降は1回しか使用できないので注意する。
 - (4) 防除に当たっては、粉剤と比較して液剤の方が安定した効果が期待できる。
降雨の合間に薬剤防除を行う場合、液剤では散布後一旦薬液が乾けば、その後に降雨があっても効果は低下しないが、粉剤では散布後6時間以内に降雨があった場合、薬剤の効果が低下するので注意する。